

## 第 1 編 新宿文化センターの在り方と運営方針

## I 新宿文化センターの概況

新宿区では、区成立 25 周年記念事業の一つとして、「区民総合集会施設」の建設を計画し、途中、オイルショック等による計画保留等がありました。大きな期待の中、昭和 54 年（1979）4 月に開館を迎えました。

以降、現在に至るまで、新宿区における文化芸術活動の拠点として活用され、大きな役割を果たしてきました。

しかし、開館後、新宿文化センターを取り巻く状況は大きく変化してきています。区内では、角筈区民ホール等が新たに開設される一方、東京厚生年金会館、コマ劇場等、民間ホールの閉館が相次ぐ一方、区外では様々なホールが開設されました。

また、利用者のニーズも大きく変化し、館の施設の老朽化も進んできています。

このような状況下で、新宿区における文化芸術活動の拠点として、時代の環境や変化に適切に対応した活用が求められています。

また、新宿文化センターは、その施設・設備について、次のアからウまでにより、休館を伴う修繕が必要な状況にあります。

ア 建築基準法施行令の一部改正（平成 26 年 4 月 1 日施行）による「特定天井落下防止対策」\*の必要性

\*地震に対する建築物の安全性の確保を図るため、天井等の構造方法に係る基準が強化され、新基準に対応する部材を使用する等の対応が必要となった。

- ・一定の重量があること 単位面積重量 2 kg/m<sup>2</sup>
- ・一定の高さがあること 6m 超
- ・一定の面積があること 面積 200 m<sup>2</sup>超

イ パイプオルガンの老朽化の進行（異音の発生等）に伴うオーバーホールの必要性

ウ 館全体の老朽化の進行（大ホール舞台床をはじめ、昭和 54 年の開館当時の状態のままの部分もある。）による長期休館を伴う大規模修繕の必要性

### (1) 設置の根拠

新宿文化センターは、「新宿区立新宿文化センター条例」を設置根拠とし、同条例第 1 条では「区民に文化的活動等の場を提供し、もって文化芸術の振興及び区民の文化の向上を図るため、新宿区立新宿文化センターを設置する。」と規定しています。また、第 1 条の設置の目的を達成するために、「文化センターの利用に関すること」、「文化芸術の振興に関すること」、「区民に対する文化の普及及び支援に関すること」、「その他区長が必要と認める事業」を行うことが同条例第 3 条には定められています。

### (2) 開館時の基本的な考え方

新宿文化センターの開館時の基本コンセプトは、昭和 48 年(1973)の新宿区基本構想にみることが出来ます。そこには、「区民が音楽、絵画等に接し、創造的な生活を学ぶ場が不足しており・・・(中略)・・・、また、誰でも文化活動ができ、

鑑賞、発表のできる総合的な常設施設の整備を図る。」ことが記されており、「地域文化のシンボルと区民交流の場」として設置されました。

そのため、「月の前半は、区民の文化活動の場として、区民を主体とするアマチュア文化団体の優先利用させることとし、月の後半は、ホールの特性を活かして、クラシック音楽の分野に限って、一般利用を認める。」を施設利用方針として、施設の運営を開始しました。また、多くの区民に文化芸術の鑑賞機会を提供するため、館の管理運営主体である財団法人新宿文化振興会（現在の公益財団法人新宿未来創造財団）は、主催事業の鑑賞料金について、上限額を3,000円に設定していました。

開館時の評価としては、「都内にクラシックホールが数少ないこと、オーケストラに最適なホール」として演奏家・評論家から高い評価を受けていたことや、「都内有数の音楽ホール、音楽の殿堂」として評価されていたことが、『新宿文化センター5年の歩み』や『10年の歩み新宿文化センター』に記されています。また、こうした開館時の施設利用の基本方針については、平成18年度の指定管理者制度導入時に見直されましたが、現在の登録団体優先制度にその考え方は引き継がれています。

### (3) 施設の概要

大ホール（1,802席）、小ホール（210席）、展示室、第1～第5会議室、和会議室、リハーサル室、レストラン、駐車場

### (4) 運営状況

新宿文化センターは、「公益財団法人新宿未来創造財団」が指定管理者として、管理運営を行っています。

- ・利用時間帯 3区分 午前（9～12時）・午後（13～17時）・夜間（18～22時）
- ・別紙資料「新宿文化センター施設利用料金一覧」のとおり

文化センターの利用料等の減免制度

区 分	利用料の減免額
公益財団法人新宿未来創造財団の主催事業	免除
区主催事業	50%減額
財団共催事業	25%減額
登録団体	使用料を50%減額

### (5) 現況（指定管理、利用状況、文化センター及び区内・近隣自治体の類似施設等）

新宿文化センター開館以降、サントリーホールをはじめ、Bunkamura オーチャードホール、文京シビックホール、新国立劇場、すみだトリフォニーホール等が開設され、都内の音楽ホールの設置状況が大きく変化しています。一方で、演劇の分野では、シアターコクーン等専門性の高いホールが登場し、演出の方法と施設の仕様

が一致するような施設が主流となっています。以下、新宿区内外における主なホールの開館・閉館状況を示します。

① 新たなホールの開設

【新宿区内の主なもの】

・区民ホール

名 称	開 館	席 数
角筈区民ホール	平成元年	236
牛込筈区民ホール	平成3年	392
四谷区民ホール	平成9年	452

・民間ホール

名 称	開 館	席 数
東京グローブ座	昭和63年 (平成16年リニューアル)	703
東京オペラシティ コンサートホール	平成9年	1,632

【新宿区外の主なもの】

・公共ホール

名 称	開 館	所在地	席 数
練馬文化センター	昭和58年	練馬区	1,486
東京芸術劇場	平成2年	豊島区	1,999
中野ZEROホール	平成5年	中野区	1,292
新国立劇場	平成9年	渋谷区	1,814
すみだトリフォニーホール	平成9年	墨田区	1,801
文京シビックホール	平成12年	文京区	1,802
杉並公会堂	平成18年	杉並区	1,190
世田谷パブリックシアター	平成7年	世田谷区	約600
座・高円寺	平成21年	杉並区	298 *最大

・民間ホール

名 称	開 館	所在地	席 数
サントリーホール	昭和61年	港区	2,006
Bunkamura オーチャードホール	平成元年	渋谷区	2,150
Bunkamura シアターコクーン	平成元年	渋谷区	747

② 閉館となったもの【区内】

名 称	閉館	席 数
朝日生命ホール	平成 16 年	650
新宿コマ劇場	平成 20 年	2,100
シアターアプル	平成 20 年	700
シアタートップス	平成 21 年	155
東京厚生年金会館	平成 22 年	2,062

③ 分野別利用状況

新宿文化センターは、これまで「地域文化のシンボルと区民交流の場」、「区民総合集会施設」、「多目的文化施設」として位置付けられ、施設運営が行われてきました。

大ホールの利用状況からみると、クラシック音楽の割合は約3割であることや、民間企業の株主総会のための利用の増加など、多目的ホールとして利用されています。

・大ホール

(単位:%)

年度	クラシック音楽	バレエ・ダンス	演劇 ミュージカル	講演会	ポピュラー 音楽	その他（発 表会・合 唱・練習）
21年度	29.2	17.9	8.3	12.5	10.0	22.1
22年度	22.7	22.5	13.5	10.8	8.9	21.6
23年度	25.7	13.0	9.9	16.2	13.4	21.8
24年度	29.5	12.7	16.1	14.1	11.9	15.7
25年度	23.4	16.4	8.9	14.2	13.6	18.5

※「クラシック音楽」には「オペラ・オペレッタ」「パイプオルガン」の利用も含む。

・小ホール

(単位:%)

年度	クラシック 音楽	講演会	音楽 発表会	その他（主なもの）
21年度	21.0	24.9	15.2	練習(14.1) 落語・芸能(9.1) 演劇(9.1)
22年度	16.4	22.1	16.4	演劇(19.5) 練習(14.5) 邦舞・邦楽(3.2)
23年度	16.9	28.5	18.7	練習(15.0) 演劇(9.8) 落語・芸能(4.6)
24年度	18.0	34.0	20.7	練習(12.4) 落語・芸能(6.7) 邦舞・邦楽(4.0)
25年度	24.8	22.7	8.5	練習(17.1) 落語・芸能(11.4) 邦楽・邦舞(3.5)

※「クラシック音楽」には「オペラ・オペレッタ」「ピアノコンサート」の利用も含む。

・入場者数

(単位：人)

施設名	22年度	23年度	24年度	25年度
大ホール	306,912	185,331	238,587	267,961
小ホール	50,946	47,303	37,489	48,074
展示室	33,659	36,592	36,134	31,019
リハーサル室	31,581	22,922	24,312	23,710
第1会議室	26,269	23,247	23,292	25,568
第2会議室	15,053	14,059	14,752	13,575
第3会議室	10,305	8,176	8,628	8,100
第4会議室	9,300	6,802	6,720	7,595
第5会議室		5,584	6,555	7,385
和 会議室	8,907	11,473	8,864	7,700
会議室 計	69,834	69,341	68,811	69,923
合計	492,212	361,489	405,333	440,687

※23年度は、震災に伴う工事のため2カ月間休止

・施設別稼働率

(%)

施設名	22年度	23年度	24年度	25年度
大ホール	78.0	78.2	74.7	74.5
小ホール	68.5	61.4	52.6	64.7
展示室	80.8	84.0	82.2	84.1
リハーサル室	82.1	72.1	85.8	81.7
第1会議室	77.8	74.3	78.8	77.9
第2会議室	76.9	74.5	79.1	76.1
第3会議室	68.3	66.3	66.6	71.8
第4会議室	63.9	60.1	63.2	64.9
第5会議室		57.1	67.7	74.1
和 会議室	46.3	44.4	46.4	45.9
会議室計	66.6	62.8	67.0	70.7
合計	71.2	66.8	69.7	71.6

・【オーケストラのフランチャイズ例】

楽団名	ホール名
新日本フィルハーモニー交響楽団	すみだトリフォニーホール
東京フィルハーモニー交響楽団	Bunkamura オーチャードホール
NHK交響楽団	NHKホール
日本フィルハーモニー交響楽団	杉並公会堂
東京交響楽団	ミューザ川崎

・【事業提携・芸術提携】

楽団名	提携先
読売日本交響楽団	東京芸術劇場
東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団	江東区
東京フィルハーモニー交響楽団	文京区

(6) 新宿区文化芸術の振興に関する懇談会の28項目の提言のうち、文化センターに関する7項目の提言について

新宿区文化芸術振興基本条例の制定に際し設けられ、条例制定内容を検討した「新宿区文化芸術の振興に関する懇談会」では、28項目の提言を行いました。そのうちの7つが新宿文化センターに関するものでした。内容は、次の①から⑦とおりです。これらの提言については、新宿文化センターの指定管理者事業評価を実施していて、この中の評価項目として、提言の進捗状況を毎年評価されています。

① ホールや文化センターに蓄積された強み等を活かした新宿文化センターのイメージ・発信力の強化

数多い大学・地域等のアマチュア交響楽団の定期演奏会、ジャズ・ポピュラー等、ホールの特色となりつつある分野や新宿文化センターに蓄積された強みを活かして、「クラシック、ジャズからポピュラーまで、さまざまなジャンルに彩られた音楽の殿堂」としてホールの特性を活かすことや、メディアやネーミングライツを利用するなど、新宿文化センターのイメージ・発信力の強化を図っていくことを提言します。

② 開設時の施設利用方針の緩和・見直し、より多くの区民に支持される公演の選択や入場者を意識した公演誘致、20代・30代の年齢層への認知度アップ

これまでの施設利用の視点に加えて、ホール（センター）の認知度を高める視点から多彩な公演を誘致することを提言します。

③ 文化芸術団体の活用・発表の場、練習・稽古場の不足の声に応えた新宿文化センターの施設を積極的に提供していく仕組みづくり

現在の登録団体制度に準じた文化芸術団体に対する準登録団体制度の導入（優先受付・利用料金の減免）を検討することを提言します。

④ 大小ホール、展示室、会議室などをフルに活用する事業、文化月間・文化ウィークによる通し活用や提案型利用、文化センター界隈の施設の拠点として周辺施設と一体となった事業の展開

- ・文化月間・文化ウィークによる文化センターの通し活用や期間を定めての事業提案型のホールやセンターの活用を行うことを提言します。
- ・区内の多様な演奏家やアーティスト、ライブハウス、劇場、ホール、能楽

堂、演芸場などをつなぐ地域連携の拠点としての大ホールや全館の運営（例：文化センター内だけのジャズ祭りからまちぐるみのジャズ祭りへ、歌舞伎町に整備される（仮称）大久保公園シアターパークとの連携や一体となった事業展開 等）を行うことを提言します。

- ・親子や高齢者など、家族や年代などを具体的にイメージしたホールの運営（例：乳幼児も聴けるコンサート、年代別なつかしの歌コンサート、親子またはシニア向け楽器・伝統芸能等体験講座 等）を行うことを提言します。

#### ⑤ 新宿の地域特性を活かした開館時間の拡大

新宿の地域特性や文化センターの立地条件等を十分に活かした、例えば、午前 8 時から午後 11 時までの開館時間の拡大の検討について提言します。

#### ⑥ 鑑賞モニター・友の会・地域との連携など参加協働型の施設運営

鑑賞モニター制度や、セグメント（分割）化を意識した友の会の導入、文化センター運営ボランティアの導入等、参加協働型の施設運営を行うことを提言します。

#### ⑦ 音楽・演劇・舞踊・伝統芸能等、演目の特性に合わせた文化センターと区民ホール等との連携

音楽等の演目の特性に合わせて新宿文化センター、区民ホール、（仮称）大久保公園シアターパークの役割分担を行う等、トータルな視点からの文化センターの運営を検討していくことを提言します。

## II 文化芸術振興会議（専門部会を含む。）における検討

昭和 54 年（1979）の開館以降、社会情勢や周辺環境、区民ニーズ等の変化等によって、新宿文化センターを取り巻く状況は大きく変化しています。このような現況を踏まえ、様々な視点から審議を重ね、論点ごとに整理し、中間のまとめとしたものです。

今後は、①同種のホール施設の開業、②色々な使い方をされ館の顔が見えない、③最近の演目に施設・設備が追いつかない、④ニーズの変化、⑤稼働率の向上など、新宿文化センターを取り巻く環境の変化を認識した上で、「ポジションの明確化」や「イメージの確立」など、“戦略”を明確化し、個別の施策としての“戦術”を検討していく必要があります。

今までは、新宿文化センターにおける事業や運営面など、ソフトの観点を中心に審議を進めてきましたが、いずれの論点も施設改修などのハード面にも密接に関連があります。一方で、特定天井落下防止策の検討や、パイプオルガンの老朽化の進行などの施設面での課題に対して検討も進められています。

これらの課題に対する区の方針、具体的な対応策の検討等に着目しながら、その進捗状況に合わせて、次期以降も審議を継続していくことが必要です。

※ 次頁の図は、会議での意見をまとめ、整理をしたものです。



## 1 新宿文化センターをめぐる状況等

### 新宿文化センターをめぐる状況等

昭和 54 年の開館当時は、都内でも有数の音楽ホールでしたが、サントリーホールをはじめとして、近隣に同様なホールが作られると、文化センターをめぐる状況も大きく変化してきました。音楽ホールとしての活用は十分可能ですが、最近のホールは、演出に合わせた仕様となる等、専門性が高められるとともに、設備も進んだものとなっています。また、稼働率の低下を真摯に受け止める必要があります。

#### 委員の主な意見

- ・ サントリーホール、オーチャードホール、文京シビックホール、国立劇場等ができた中で、文化センターはオペラ等様々な公演をしてきたが、サントリーホール開館あたりを契機として、都内の状況が、音楽関係においては変化してきている。
- ・ 最近の施設は非常にアドバンストなので、今の文化センターのハードに相当お金をかけても、他の新しいホールにキャッチアップするのは難しいのではないか。
- ・ 文化センターは音楽ホールとしてはいいが、ハードの仕様は、サントリーホール等の専門の音楽ホールとは少し違う。
- ・ 来日オーケストラの方によると、話に上がるのはまずサントリーホール、二番目にミューザ川崎。次に、オーチャードホール、上野の文化会館等。文化センターは知る限りではほとんど出てこない。
- ・ 演劇でも専門的なホールができ始めて、かなり専門性が高く、演出の方法と施設の仕様が一致するような流れになってきている。
- ・ 新宿コマ劇場、東京厚生年金会館等区内のホールの閉館が進んだが、こうしたホールの利用者ニーズはどこへいったのか。
- ・ 大ホール、小ホール、展示室等は東日本大震災で2カ月休館したのに、翌24年度にも利用が下がったと読める。
- ・ ここ数年、約50万人の利用者で推移していたが、24年度は40万人。景気悪化、人口減、大震災等事情はあるかもしれないが、施設の稼働状況等から、危機感を持った方がいいような状態と思う。
- ・ キャパシティも十分にあり、音楽ホールとしては十分活用できると思う。著名な演奏家を呼ぶことは可能だと思う。

## 2 戦略

### (1) イメージの確立

新宿文化センターは多様な活用のされ方の中で、施設イメージがはっきりしないことが感じられます。これからは、核となるイメージの確立が必要です。

#### 委員の主な意見

- ・文化センターは、良いロケーションがメリットでもありデメリットでもあると思う。年間利用者数が 50 万人近くで新国立劇場の倍ぐらいになるが、ロケーションのよさから色々な使い方をされ、館の顔がはっきり見えないうように感じられる。
- ・何らかのイメージを固めて、選択をする時期に来ているのではないか。
- ・イメージに焦点を当てた事業を企画し、イメージを引っ張っていくと似た企画が文化センターに集まるようになり、貸し館としてもイメージに合う企画を誘致しているのではないか。
- ・文化センターのイメージが明確化してくれば、教育現場でもより活用できる。
- ・文化センターは音楽の殿堂として設立時の技術の粋を集めて作られ、今なお、音響的にはそんなに遜色はないと思うので、その強みをうまく生かすような形で、ブランド力を高めていくという方向性があり得るのではないか。

### (2) ポジショニング

新宿文化センターが、これまでの経緯、近隣の同種のホールとの関係、館の設備、客層等を踏まえて、どのようなポジションを取っていくのかを明確にする必要があります。

#### 委員の主な意見

- ・東京にある他のホールとの関係や競合も含め、どういうポジショニングをとるのかを考える必要がある。
- ・全国的に見た時、劇場としては非常に設備もよく、お客さんもついている、場所もいい、この強みをどのように活かして、新たなポジションをとるか。
- ・開館当時はクラシック音楽の殿堂だったかもしれないが、今は都内では、その点はそんなに強みではないと思う。
- ・音楽にある程度特化すべき。場所、設備を考えても、貴重な施設だと思う。
- ・クラシック音楽の比率が意外に高くない、大ホールでも3割位。小ホールでは音楽発表会、クラシックが中心のようだ。クラシックだけか、土地柄からジャズやポピュラーも含めた音楽の殿堂としていくのか。そういうビジョンが必要。

- ・バレエ公演は「ゆうぼうと(五反田)」が人気だが、文化センターの方が使い勝手がいいと思う。バレエ等での活用の方向もあるのではないかな。
- ・東京を代表するブランドになるのか、より地域に密着して文化や芸術を育てていく拠点になるのかでは、目指す方向性が違ってくる。
- ・3つの区民ホールがあるので、それらとの役割分担をきちんと考えていくことも大切。文化センターでなければできないようなものに集中していく在り方があっていい。

### (3) 選択と集中

利用者、区民等の意見、利用者ニーズ、社会の動向等を踏まえて、やるべき部分やめるべき部分をはっきりさせて、「選択と集中」を進めていく必要があります。

#### 委員の主な意見

- ・何でもやるというのは中々難しい。マーケットのニーズ等も加味しながら、何をやらぬかを決めていき、残った所が重要なので、そこに集中する。
- ・利用者が減っているが、全国的に見ると50万人が入る劇場はそんなになんないと思う。強みは、それなりにいい箱で、お客さんがついていて、立地もよいこと。その強みを活かしていく。

## 3 戦術

### (1) 育成の方向（練習の場）

区内で不足する吹奏楽等の練習の場として、また、イメージアップの戦略として、育成、インキュベーターの役割を担っていくことが必要です。そのため、練習利用割引の拡大等が求められます。

#### 委員の主な意見

- ・育成の部分を狙うのもありと思う。割とそこは強い部分ではないかと思う
- ・自身で活動する区民の方や、外国籍の区民も多い。そういうフレッシュな方々を育てていくようなインキュベーターになるというのも1つの方向性と思う。
- ・学校との連携も大切。学生の練習利用の促進が必要
- ・練習利用割引は平日午前中に限られる。他のホールで割に遅い時間でも使えるところもあるようだが、文化センターは利用しづらい。
- ・会議室等も、合唱や弦楽器の練習はできる態勢で、稼働率もある程度よい。音楽関係の利用をもっとしやすくすればと思う。

## (2) 専門家の活用

委託か、しっかりしたポジションへの就任か、方法は別にして、専門家（芸術、コーディネーター、企画等）を活用して、イメージの確立を実現していく必要があります。

### 委員の主な意見

- ・アドバイザーやプロモーター、アートコーディネーター等を文化センターに配置することが必要
- ・東京芸術劇場であれば芸術監督がいて全体の企画を立てる。芸術監督のような人を館長に採用できないか。芸術監督がいないならば、外部アドバイザーのような方がいた方がいい。
- ・経営的な視点を持った方の参画が必要ではないか。

## (3) 職員の育成、配属等

高い専門性を備えた職員を育成し、継続的に配置する必要があります。また、区民、利用者と顔の見える関係を構築し、地域の文化芸術を振興していく必要があります。

### 委員の主な意見

- ・経営的視点で、新しい価値の創出と顧客のサービスについての専門性を持った職員の養成等も必要
- ・音楽もあり美術もあり舞台もあるなら、その専門職員を継続的に、少なくともある程度までは育てる必要があるのではないかと思う。
- ・スタッフの充実（広報活動、アウトリーチ活動、渉外等）

## (4) 運営手法の充実等

多彩で魅力的なステージを提供していくとともに、友の会の活用、ネーミングライツの導入等、運営手法を凝らしていく必要があります。

### 委員の主な意見

- ・サントリーホール等のランチタイムコンサートは結構満員になる。新宿では場所柄、会社関係の人が多と思うが、そういう方々もターゲットにするといい。
- ・「音楽・コーラスの集い」、「合唱祭」など、区民参加で長年続いている行事もあり、今後も長く続けていってほしい。
- ・最近、地方の無形文化財が改めて見直されている。文化センターは音楽に特化していくとしても、神楽みたいな伝統芸能もいい。
- ・演劇の割合を増やしてもいいと思う。

- ・新宿区は国際平和都市ということもあり、平和都市としての発信ということもできるのではないか。
- ・社会参加の機会の拡充として、障害者に向けたコンサート等が少ないと思う。
- ・ブランド化、知名度を高めるため、国際的に優れた演奏家の公演等を行う。
- ・誕生日には館長からメッセージカードが届く等友の会を活用して、ソフト面がきめ細かく充実している施設もあると聞く。そのような取組が可能ではないか。
- ・例えばどう利用者の予約を獲得するのか、大ホールを練習に使いたい方にどのように使わせるのかという戦術的な議論については、できる限り規制緩和をして、ITも使って、夜間や直前予約を簡単にできるようにする等、色々な施策をとるべき。
- ・鑑賞等の効果を上げるため、アウトリーチ活動が必要。
- ・受益者負担の適正化を考えていかなければならない。
- ・住民や利用者に寄付等の働きかけを行う。
- ・C. C. Lemon ホール（現渋谷公会堂）のような、ネーミングライツの手法もある。

## 4 マネジメント

### コラボレーション・参加型公演

音楽でも違うジャンルでの、また、美術館とのコラボレーション等で、相乗効果を発揮させ、新しい魅力を提供していく必要があります。また、区民参加型や区民が企画から携わる公演等を行い、集客に結び付けていく必要があります。また、館のフランチャイズ化、業務提携等を検討する必要があります。

#### 委員の主な意見

- ・ジャズ祭り、沖縄音楽フェスティバル等のようなプロと地域をうまく融合した企画は、お客さんが入る実態がある。地域との連携やコーディネート力向上を進める必要がある。
- ・区民ホールだけではなくて、他機関、教育機関との連携等も必要
- ・一昔前は、劇場は劇場、ミュージアムはミュージアムという考え方だったと思うが、最近では知的インフラとして、ミュージアム・ライブラリー団体間の連携が見られるようになり、色々な広がり方があり得る。
- ・区民参加型にして、協働でつくっていくものが一番よいかと思う。
- ・ノウハウがある団体との連携により、アウトリーチ等色々な展開ができ、更にはシナジー効果も期待できる。
- ・フランチャイズ化は、非常にいいと思う。単に貸し会場ではなくて、公演も企画できるようにする。

## 5 施設の充実等

### (1) 施設の充実

文化芸術の活動の場としてだけではなく、食事、休憩、ギャラリー、交流の場、等様々な楽しみ方ができる施設とするとともに、気軽に立ち寄れる施設としていく必要があります。

#### 委員の主な意見

- ・文化センターは、いろいろな方がふらっと立ち寄るといった感じではなく、何となく暗いイメージもあるので、その辺の改善が必要ではないか。
- ・外国のように鑑賞後に利用できるように遅くまでレストランが開いていたり、カフェで休めたりと、そういう色々な文化的な楽しみ、人々の集いの場所のようなところも欲しい。
- ・文化センターに人が集まれば、にぎわいが生まれ、文化の継承の場にもなる。芸術を鑑賞し、同時に新宿の歴史やまちの魅力に触れられるという場を作っていければ、壮大なアーカイブになると思う。
- ・ロビーには作品が幾つか並んでいる。そのようなギャラリーのように使えないか。
- ・いわば大人の社交の場として美術館や博物館を夜間に利用するようになっている。文化センターの在り方として考えていい。

### (2) パイプオルガン

音楽ホールとしては、パイプオルガンは魅力的であり、維持活用していく方法を探るべきと思われます。但し、更なる活用を図るとともに、維持費の確保等の工夫を凝らす必要があります。

#### 委員の主な意見

##### 【維持・活用】

- ・区民として、パイプオルガンはまさに文化センターの象徴だと思う。
- ・オルガン奏者によると、文化センターのパイプオルガンは仏製のとても立派なもので、サントリーホール等のものに劣るものではないので、残していただきたい。
- ・オルガニストは、練習する場所がなくて困っていると聞いたことがある。練習に活用するのはいいかと思う。
- ・ランチタイムコンサート等で広く聞いていただく機会をつくるといいのでは。
- ・パイプオルガンは修理をしないで日がたつほど、修理費がかかるようになっていわれている。
- ・パイプオルガンは、きっぱりやめる、なりふり構わずやるという、どちらかしかない

いのではないか。

#### 【魅力の発信】

- ・パイプオルガンの種類という点から、日本は世界でもかなり特殊な、恵まれた地域だと思う。東京を中心に2時間位の距離に20種類近くのパイプオルガンがあり、世界的に見ても非常に珍しいようだ。そういう角度からの発信はされていないと思うが、色々な形で文化センターのパイプオルガンを発信していける術はあるのではないか。
- ・パイプオルガンを小学生や中学生に見学させるということも大切だと思う。

#### 【維持費用の確保】

- ・まとめて4,500万円だというから、そんなお金はとて出せないという発想もわかるが、20年に1回オーバーホールしなければいけないのであれば、ちゃんと割り戻して年間の維持費として対応すべきではないか。
- ・小口の寄附等は、昔は面倒だったが、今はネットでもできる。比較的安価・簡単にできると思うので、寄付等一定の負担をしてくれる人の存在を示すのはいかがか。

#### 【撤去】

- ・使えない状態で放っておくと劣化するので、取返しのつかないことになる。やめるのであったら費用もかかるだろうが撤去してしまった方がいい。
- ・やめるなら年間400万円が浮くが、その予算を他の何かに、例えばバリアフリーのために活用する等の代替案があれば、考える余地が出てくると思う。

#### 【その他】

- ・文化センターは後でパイプオルガン設置したことにより、構造上・演出上、若干の影響があると思う。